講演テーマ

令和8年度 にししん経友会宇部特別講演会

「拉致問題の風化に抗して」

～北朝鮮主張の「解決済み」のウソと解決への道を考える～

工作員により拉致され‥北朝鮮での暮らし‥日本に残る苦悩など‥
今も北朝鮮に残る被害者の思いを考えると
「帰れないと割り切って暮らしていた時の何倍も、今が辛い」

講 師

蓮池 薫 氏

新潟産業大学経済学部特任教授

講演日

令和8年

11月17日㊋

18:30~20:00

会 場

国際ホテル宇部

3階 ダイヤモンドホール

■主催／にししん経友会宇部・西中国信用金庫
■後援／株式会社宇部日報社

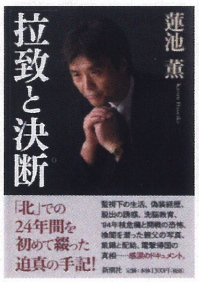
蓮池 薫

はすいけ　かおる

新潟産業大学経済学部特任教授

PROFILE

1957年新潟県生まれ。
中央大学法学部3年在学中に拉致され、24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされる。
帰国後、新潟産業大学で嘱託職員、兼非常勤講師として勤務するかたわら、中央大学に復学。2005年に初訳書『孤将』を刊行。
翻訳者としての仕事をこなしながら勉学に励み、2008年3月に中央大学を卒業。
現在、新潟産業大学経済学部特任教授。
他の訳書に『ハル　哲学する犬』『私たちの幸せな時間』『もうひとり夫が欲しい』など多数。
著書に『蓮池流韓国語入門』『私が見た、「韓国歴史ドラマ」の舞台と今』、3作目の『半島へ、ふたたび』は25万部を超えるベストセラーとなる。この作品で新潮文芸振興会主催の新潮ドキュメント賞を受賞。



昭和53年7月31日・・。当時、交際中の妻と久しぶりの再会中の瞬間拉致。
暗くなってゴムボートが1隻来ると、袋に入れられたまま「ドスン」と乗せられた。顔だけ出ていたが、今でも覚えているのは狭い視野から見える、柏崎の明かりが遠のいていく光景。それから24年間、戻ることはなかった日本の光景。
その後、舟に乗せられた。その舟というのは普段は日本の漁船のように行動し、作戦の時になると領海に突っ切ってくる。舟の中では痛みに加えてひどい船酔いで吐きっぱなし。体はグロッキー、頭の中はパニック。一緒にいた家内がどこにいるかも分からない。ただ、舟の中で1回だけ「ここにいるよ」と声が聞こえた。
北朝鮮の清津（チョンジン）につくのにまる2日。清津の軍港のようで、着くとずらりと軍人が並んでいる。皆、150センチちょっとくらいで小人のようだった。真ん中に車が1台あって、恰幅のいい人が1人立っていて日本語で「ようこそ」。そう言われてもこちらは来たくて来たわけではない。
車に乗って町の中を走ったが、明かりが非常に暗く、貧しい国なんだな・・。

にししん経友会宇部とは

西中国信用金庫の取引先で組織された異業種交流団体です。
研修会･勉強会や講演会等による情報交換により地域貢献のお手伝いを通して共存共栄を目標に活動しています。
今回の特別講演も地域貢献の一環として、一般の皆様にも開放し開催するものです。